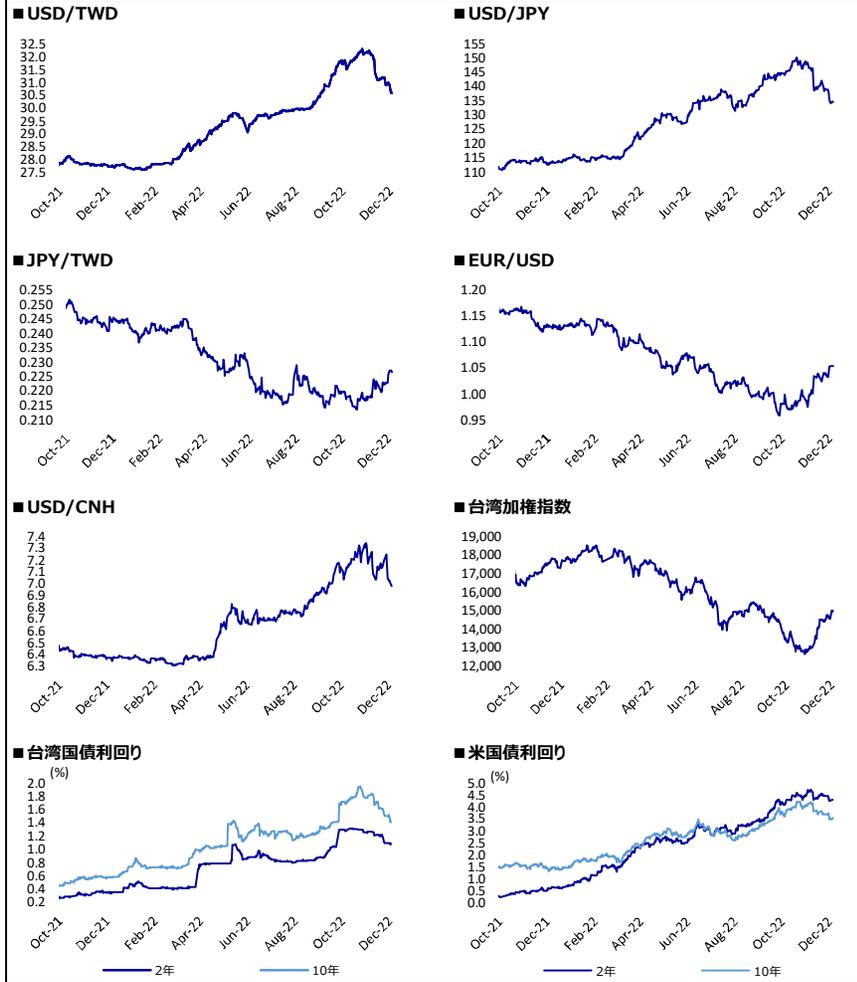


市場動向



先週の市場動向

■ USD/TWD
先週のドル/台湾ドルは下落。週初11/28は30.960でオープン後、中国各地でコロナ対策への抗議活動が行われ、警戒する動きから台湾株が売られるとドル台湾ドルも31台に上昇したが、人民元の下落が一服すると台湾ドル売り圧力も弱まり、31ちよどを挟んだレンジで推移。11/29は一時31.040まで上昇したものの、中国でのコロナ防疫措置の緩和への期待から台湾株が上昇に転じると台湾ドル買いが優勢に。月末の輸出企業のドル売り需要も重なり、30.9台前半まで下落。11/30も台湾株が上昇すると、30.8台前半まで下落したが、海外への投資資金のフローもあり30.9台に戻された。12/1は前日のパウエルFRB議長の講演を受け、台湾株の上昇と共に外資が流入し、輸出企業も急いでドルを売ったため、30.6台まで急落。12/2も台湾ドルは買われ、一時30.550まで下落したものの、米雇用統計を控え底堅く推移し、最終的に先週比1.0%ドル安台湾ドル高の30.605で先週の取引を終了。週間の外国人投資家の株式買い越し額は328.6億台湾ドル。

■ USD/JPY
先週のドル/円は大幅に下落。週初11/28は139.24でオープン後、中国でのコロナ対策への抗議活動等からリスク回避の円買いや米金利の低下から137円台後半まで下落したが、FED高官のタカ派発言を受け138円台に戻した。11/29は実需のドル買いから139円台に戻す場面も見られたが、米金利の低下を受けて137円台後半まで下落。一巡後は138円台後半まで戻した。11/30は米第3四半期GDP改定値が速報値から上方修正される等好調な経済指標を受けて米金利が上昇するとドル円も139.89まで上昇。しかし、その後のパウエルFRB議長の講演では利上げペースを緩める時期が早ければ12月に来る可能性を示唆したこと、米金利が低下する展開にドル円も急落し、一時137円台後半に。12/1もドル売りの流れが継続し、米11月ISM製造業景気指数が予想を下回り、景気判断の節目とされる50を割れたこともあり、135円台前半まで下落。12/2は節目の135円を割り込むと下げが加速し、一時133.62まで下落。しかし、その後に発表された米雇用統計では、非農業部門雇用者数や平均時給が予想を上回ったことからドルが買われ、135円台後半まで上昇。一巡後は戻し売りも入り、最終的に先週比3.5%ドル安円高の134.34で先週の取引を終了。

今週の見通し

■ USD/TWD 予想レンジ：30.000-30.650
中国でのコロナ防疫措置の緩和や、米国の利上げペース減速期待から台湾株高台湾ドル高の流れを見込む。ただし、翌週にFOMCを控えていることから過後半には動意に乏しい展開となるであろう。

■ USD/JPY 予想レンジ：132.00-136.00
今週も米経済指標の発表が複数予定されているが、強い雇用統計を受けても、米国の利上げペースの減速期待は相応にあり、ドル円の上値が重い展開は続く見込む。

今週の予定

12/5 (MON)	台湾11月外貨準備高、米10月ISM非製造業景気指数、米10月製造業新規受注
12/6 (TUE)	台湾11月CPI、米10月貿易収支
12/7 (WED)	台湾11月貿易収支
12/8 (THU)	
12/9 (FRI)	米11月PPI、米12月ミシガン大消費者信頼感

(Source) Thomson Reuters, Mizuho Bank

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。当資料に記載された内容は、事前連絡なしに変更されることがあります。投資に関する最終決定は、お客さまご自身の判断でなされるようお願いいたします。当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず、無断で引用、複製することを禁じます。